



2020・3・21

第 368 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 新型コロナ便乗の改憲を許さない

### 緊急事態条項の危険性を学習

【宮城県／宮城女性九条の会】 「緊急事態条項」を憲法に盛り込む危険性を「ヒトラーの手口」から解説する学習会が8日、仙台市で開かれました。入り口でアルコール消毒をするなど新型肺炎対策をしての集会でしたが、86人の市民が参加しました。

主催した宮城女性九条の会の一戸葉子共同代表があいさつし、東京大学大学院の石田勇治教授が講演しました。

石田氏は、非常事態に国家が人権や権力分立を一時停止する「緊急事態条項」が、内閣独裁への魔法のつえであり、社会を国家の指揮下に置く総動員体制のスイッチだと批判。2018年の自民党の「緊急事態条項」加憲案が、一見ソフトな表現だが無限の乱用が可能な内容だと警告しました。戦前のドイツの民主的なワイマール憲法下で、「緊急事態条項」がヒトラー独裁を合法的な装いで可能にした歴史的経過を解説しました。

会場からの、安倍内閣の新型インフル特措法「改正」案の危険性についての質問に石田氏は、「特措法」が「緊急事態条項」

### 憲法審査会の開会迫る自民党

新型コロナ流行さえ好機ととらえた自民党は、これに関連した「緊急事態」についての論議を「憲法改正の大きな実験台と考えた方がいいかもしれない」（1月30日、伊吹文明・元衆院議長）、「(国会での改憲) 論議のきっかけに」（下村博文選対委員長、2月1日）などと主張しています。

こうしたなかで衆院審査会の新藤義孝筆頭幹事と山花郁夫野党筆頭幹事(立憲民主党)が会談、新藤幹事の与野党の審査会の日程を協議する幹事懇談会を13日に開こうとの提案に山花幹事は返答を保留、結局13日には開かれませんでした。

しかし今後、こうした動きはしつように繰り返されるものと見られます。

のミニバージョンだとし、「本来必要のない法律。国民が『緊急事態』に慣らされてしまう危険がある」と警鐘を鳴らしました。

### 赤城おろしのなか新署名展開

【群馬県前橋市／かがや9条の会】 赤

城おろしが吹きつけるなかの「新署名」行動に6名が参加。

かがや9条の会が昨年1月に署名推進団体の結成を呼びかけ、2月に発足した「かがや市民の会（9団体加盟）」は2月23日（日）に第12回の署名行動を行いました。

当日はかがや9条の会会員6人が参加し、4組になり署名行動を行いました。風が強ク吹く寒い日でしたが、「新署名」28筆を集めました。

1時間の行動後、集合場所の片貝事務所に行動参加者が集まってきました。「頑張ってくださいと栄養ドリンク2本をいただいた」「最初と最後の家だけ署名してくれた。ルスも多く署名を断る家も多い」「安倍は嫌いだ。頭にきてると署名してくれた」など、さまざまな報告がありました。対話することが大切、と参加者は元気です。

訪問先で「安倍首相は国民の税金を使って有権者を公然と買収し、違法行為を繰り返していますよね。こんな安倍さんに憲法を変えてほしくないです」と話すと「そうだな」と署名に応じてくれます。署名しながらご婦人に「寒い中ご苦労様。このように動いてくれる人がいるので良かった」と励まされました。（飯田記（「かがや9条の会だより」N0.154））

## 安倍改憲阻む市民と野党の共闘

【埼玉県草加市／九条の会草加】 2月24日（月）、九条の会・草加の15周年記念集会在草加市動労福祉会館で開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大が危惧され、集会を自粛する動きも広がるさ中でしたが、その心配を跳ね返すかのように

第1部の総会から多くの方々が来場し、最終的に、140名以上の参加となりました。

安倍政権が九条改憲案を国会に発議する意思を改めて鮮明にしています。これに対し、「安倍改憲を許さないという一点で多くの市民と各野党が共闘を進めており、新たに「改憲発議に反対する全国緊急署名」を開始しています。九条の会もこれに呼応し、署名に取り組むことが承認されました。

続いて「うたごえとどけ隊」のミニコンサートと、九条の会・草加会員と「すずらんの会」による朗読。日本国憲法前文と九条を高らかに読み上げ、さらにお国言葉の“秋田弁”でも訴えた後、全員で『羽ばたけ憲法9条』を合唱しました。

第2部は九条の会事務局長である東大名誉教授・小森陽一さんの「夏目漱石と戦争の時代 そして今、憲法九条」と題した講演。夏目漱石が生きた時代から百年を経て、憲法を守るために九条の会が発足したことの意味、そして今進められている改憲をめぐる動き等について、2つの時代をシンクロ（共振）させながら、熱っぽく語りました。（「九条の会・草加」第168号）

## 島民が自分の力で大島憲法

【東京都調布市／調布九条の会】 調布九条の会「憲法ひろば」の2月例会が2月24日、調布市教育会館で開かれました。

「大島憲法と日本国憲法を歓迎した三多摩人」のタイトルで、市内在住の郷土史家、古橋研一さん（72）が会員ら36人を前に熱弁を振るいました。

大島とは東京から120キロ離れた伊豆大島のこと。敗戦翌年の1946年1月29日～

3月22日の53日間、伊豆諸島はGHQの指示で日本から行政分離された。そこで大島にあった6カ村のうち、元村の柳瀬善之助村長が各村長らに呼びかけ、独立をめざして憲法の草案づくりに立ち上がった。それには柳瀬村長と幼なじみで三原山の休憩茶屋を営む高木久太郎と、大工の雨宮政治郎の2人が主に協力した。

現在の日本国憲法が公布されたのは46年11月3日だから、大島のほうが8カ月早い。2013年にこのことを知った古橋さんが大島に渡り、資料集めと取材、研究を重ね、17年に冊子にまとめたという。それによると、大島憲法では「万邦和平の一端を負荷」すると平和主義を表明。統治権では「大島の統治権は島民に在り」と主権島民を謳い、現憲法の主権在民を先取りした形。

大島憲法や新憲法に対する三多摩地域では、当時の新聞や市町村誌などを通じほぼ歓迎の姿勢がうかがえ、祝賀行事なども。

行政分離のGHQ指令が46年3月になって「伊豆諸島除外」として大島も東京都に組み込まれることになったため、大島憲法も結果的に53日間だけの存在になった。

古橋さんは「憲法の専門家がない素人だけで作った大島憲法の草案が主権在民や平和主義を標榜しているのはすばらしい。取材で大島を訪れたとき、島民の1人が“大島憲法は島民の誇り”と言っていた。日本国憲法も国民が納得し、守り育ててきたものだ。だから政府、与党の改憲の企てを許すわけにはいかない」と講演を結びました。（「新聞OB『九条の会』」第120号）

## 安倍退陣へ県内縦断宣伝活動

**【福井県／戦争する国づくり反対総がかりアクション】** 戦争する国づくり反対！福井総がかりアクション（屋敷紘美代表）は17日、安倍政権の早期退陣を求めて県内縦断の街頭宣伝に取り組みました。

屋敷氏は、安倍晋三首相が新型コロナウイルス感染症対策で要請した「全国一律休校」について「専門家の意見も聞かず独断で行い、混乱をもたらした責任は大きい」と厳しく批判しました。

永平寺町では、永平寺9条の会代表の上田氏らがアピール。上田氏は、森友・加計学園や桜を見る会などにあらわれたウソと隠ぺいの政治を告発し、「安倍政治を続けさせてはいけない」と。かねもと幸枝衆院1区候補は「検察の人事まで私物化する内閣をいつまでも続けさせるわけにいかない」として、野党連合政権の実現に頑張る決意を表明しました。

## 9条と一体で24条改憲も

**【東京都／安倍九条改憲NO！三多摩市民アクション】** 2月26日、国分寺労政会館で改憲発議阻止・安倍首相退陣をめざす新・憲法署名スタート集会が開催。

昨年まで各地で取り組まれていた3000万署名をはじめとする運動は、前回の参院選で改憲勢力の議席数が2/3を下回る成果へと結びつきました。しかし、2021年にも選挙が控えており、安倍首相を4期目として続投する説も浮上するなど改憲への流れが再び勢いづくのではないかと懸念もあります。このような事態を踏まえてこのたび新署名が提起されました。

九条の会の世話人である浅倉むつ子さん（早稲田大学名誉教授）の講演では、改憲論のねらいは軍事力の放棄を定めた9条と、家庭内の両性の平等を謳った24条にあるとの分析をお話しいただきました。自民党は過去にもジェンダーフリー教育や性教育へのバッシングを行ってきた経緯があります。「産めよ、増やせよ」の号令はすでに始まっており、9条と24条をセットにした改憲で戦前回帰を狙っているとのこと。このような流れを阻止するためにも、ジェンダー平等と平和主義が反暴力という点で共通していることに注目し、私たちの言葉で憲法を語っていく必要があるとの訴えがなされました。

活動交流の場では各団体から3000万署名への取り組みの成果や工夫についての発言がなされました。新署名についてもすでに各団体での取り組みが始まり、学習会や大集会の企画を進めている地域もあるとのこと。新署名を活かし、改憲への流れを阻止する活動をいっそう強化していきましょう。

参加者は12地域、16団体、51名でした。（「安倍9条改憲NOニュースレター」第49号）

## ランチタイムデモ 69 回に

【和歌山県／憲法9条を守る和歌山弁護士会】 「3・11」から9年目の3月11日、「憲法9条を守る和歌山弁護士の会」が呼びかける第69回「憲法の破壊を許さないランチタイムデモ」が、40人の参加で行われ、和歌山市役所から京橋プロムナードまで行進しました。

出発に先立ち、藤井幹雄弁護士から「コロナウイルスによるイベント自粛の中で、私（藤井）が出場に備えてきた全日本トリアスロン宮古島大会まで中止となってしまいました。しかし、安倍改憲を許さない活動に自粛はあり得ません。コロナウイルス危機を奇貨として首相に独裁的な権限を集中しようと、焼け太りを狙う安倍政権をぶっ飛ばす声を和歌山から届けましょう」とのスピーチがありました。

（「久条の会・わかやま」395）

## 9条宣伝の反応にビックリ

【東京都荒川区／市岡正文（71歳）】

先日、「西尾久憲法9条の会」のメンバーとともに街頭宣伝をおこなった時の体験です。向かいのマンションから出てきた30代の男性が「音がうるさい！ 昼間に寝ている人もいるんだ」と怒って抗議してきました。

私は、「大変ご迷惑をおかけします。すみません」と謝ったうえで、「ただ、私たちは二度と戦争をしてはならない。そのために憲法9条を守りたいと思って頑張っています。少しの間ご協力いただけるとありがたいです」と話しました。

すると「憲法9条とは何だ？」と聞いてきました。私が「二度と戦争をしない。軍備を持たないと決めたのが憲法9条です」と説明すると、「そうか、俺も戦争は反対だ。署名するよ」と言って9条を守るための署名欄に名前を書いてくれました。

ビックリしました。そして、本当にうれしい出来事でした。

（「赤旗」3月17日「読者の広場」欄）